
寿命銀行

鬼火

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

寿命銀行

【Nコード】

N1029Q

【作者名】

鬼火

【あらすじ】

世にも奇妙な物語風の短編です。

―中学3年の夏だった。友達と遊んだ帰りにこのカードを拾った。真っ白なカードに『寿命バンク』とだけ書かれたこのカード。

裏の使用者名義はかすれていて読めない。

中学生の自分だ。バカな俺はよく分からないが持って帰ることにした。

つくづくあの時の自分はバカだったんだと今になって思う…

次の日の朝、カードの裏を見てみるとなぜか俺の名前が書いてあった。

もちろん書いた覚えはない。

そして裏面には使用方法と注意が表されている。

もちろんこんなもの昨日はなかった。

使用方法は1行だけ。注意も一行だけ。

2

●あなたの額に当ててほしい金額を思い浮かべてください。

■使いすぎには注意です。ご利用は計画的に。

…どこかで聞いた商売文句だ。半信半疑だがやってみることにする。

「100円…100円…」

額にカードをあてがいながら念じてみた。目を開けても何も変わった様子はない。

「なんだよ。やっぱデタラメじゃん」

呆れて机の上にカードをおこうとした瞬間、足で何かを踏んだ。そろそろと足を上げてみると100円玉1枚。

「? カードの効果?」

次は500円を願ってみる。足元に500円が落ちていた。

「うおおおおお!!」

―それからバカみたいに使った。毎日毎日1000円は引き出してたと思う。

友達に5000円以上おごってた。ほんとバカだ俺。

そんな毎日を繰り返して俺は23歳になった。

可愛い彼女もGETして、結婚間際。

プロポーズをしようと考えた俺は、お金を引き出す。指輪を買うためにも。

するといつも真っ白なカードが薄赤くなった。不気味に思った俺はカードを捨てたんだ。

そして引き出したそのお金で一級品の指輪を買った俺。

その日のうちに初めてデートした場所に彼女を呼び出した。

「：なあ大切な話があるんだ。」

「なあに？話って」

半ばまっていたといわんばかりの笑みをこぼしながらこちらを見つめる彼女

すかさず指輪の入った箱をポケットから取り出し、彼女に差し出した。

『俺と結婚してくれ！』そういうつもりだった

「俺と：」ズキリ

今まで味わったことのないほどの激痛が心臓を襲う。

俺は死ぬんだ。直感で感じた。これが本能というやつか。

彼女の悲鳴と共に頭の中に老婆の声が聞こえてきた。幻聴？ってやつ？

「あんたの寿命：しかといただいたよ：ヒヒヒ：」

不気味な笑い声と消えたその声。

「寿命カードって：そういうこ：と：か：……………」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1029q/>

寿命銀行

2011年1月15日22時06分発行